

年度 2009	学期 後期	曜日・校時 水・5	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	ドイツ語 II (German II)			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等)	P19	科目分類 外国語科目(ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:小川保博 /Eメールアドレス:ogawa_yasuhiro@nias.ac.jp / 勤務校:長崎総合科学大学 /TEL:(095)838-4589 /オフィスアワー:水 17:40~18:00 非常勤控え室				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:ドイツ語の発音と文法の基礎をしっかり身につけ、コミュニケーションのための表現力と基礎的な読解力を養成し、自ら学習する際に立ち返れる「礎」を築くことが目的です。また、外国語を学ぶことで、異文化の理解への道筋をつけられれば、と考えています。 授業方法: 読み・書き・聴き・話すことを演習形式で繰り返し、基本文例とその応用練習も含め、音読を重視します。また自宅学習用練習問題を課して、授業回数の少なさを補っていきます。 授業到達目標:全授業終了時の到達目標の目安として、「ドイツ語検定試験(独検)」4級を想定しています。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要):基本的には教科書の流れに沿って講義を進めていきます。教科書は教科書は各課「Grammatik」、「型で覚えよう・練習問題」、「Landeskunde」、「独検定ミニチャレンジ」、「Lesetext」からなっています。ドイツ語IIで学習する文法項目は、 1. 語法の助動詞、未来の助動詞 werden 2. 動詞の三基本形、過去人称変化、年号 3. 現在完了形、受動態、状態受動 4. 形容詞の格変化、比格変化 5. 再帰代名詞/再帰動詞、zu 不定詞、非人称 es の用法 6. 関係代名詞、不定関係代名詞 wer と was、指示代名詞 7. 接続法第1式—間接話法—、接続法第2式(1)—非現実話法—、接続法第2式(2)—外交的接続法— で、各項目基本的に二ないし三回の講義をあて、定期試験を含め15回の講義でドイツ語IIの学習を終える予定です。また、時間が許せるかぎり、折にふれ、さまざまなドイツ事情についても紹介していきます。				
キーワード	ドイツ語の発音、文法の基礎、表現力、読解力、異文化理解			
教科書・教材・参考書	教科書:荻野/Raab 著:「ドイツ文法 型から型へ」(朝日出版社) 参考書:独和辞典			
成績評価の方法・基準等	定期試験、出欠状況、授業への取り組み方などによって総合的に評価します。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ /学習・教育目標				
備考(準備学習等)				